

イラン大地震

長期的支援必要

AMDAの3人帰国会見

昨年十二月、イランで起きた大地震の被災地で医療活動を行った国際医療ボランティアAMDA

(本部・岡山市)の医療

救援チーム三人が帰国し

十六日、同市内で会見、

「被災者の精神的なダメージは大きく、長期的な

支援が必要」と話した。

佐伯美苗調整員(三)、

細村幹夫医師(三)らのチ

ームは十二月二十八日から

一月十五日まで最大の

被害を受けた南東部の都

市・バムなどで活動。現

地の医師らと協力して延

べ約三百人を診療した。

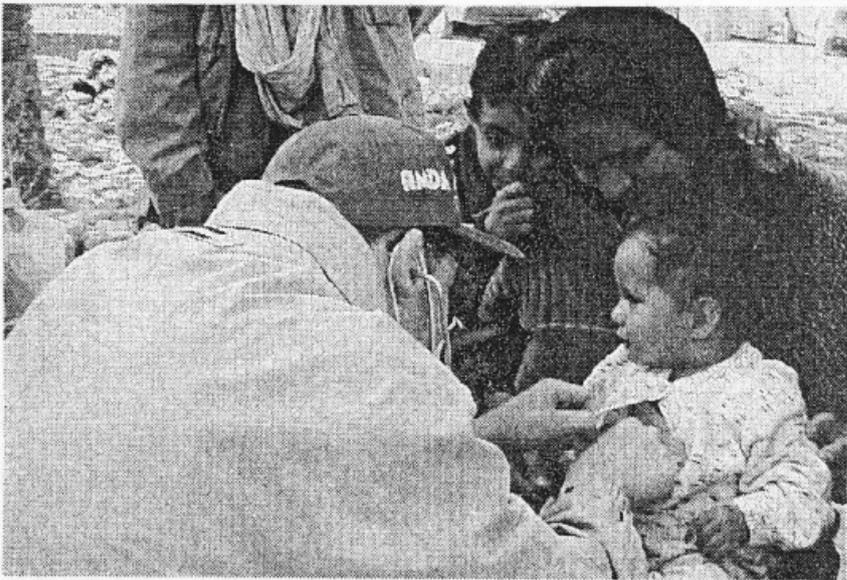
約三万人が死亡したバ

ムでは家屋の九割が倒

壊。ほとんどの住民がテ

ント生活を続け、細村医師は「通常の医療サービスを受けられず、けがを応急処置だけで放置して

いる患者も多い」と述べた。また、隣国パキスタンにいた小西司緊急救援事業部長(四)が、地震発生から三日以内に現地入りしたことを挙げ、菅波茂代表は「迅速な支援のためには、国際的なネットワーク作りが必要」と話した。



イラン大地震被災地で巡回診療を行う細村
医師＝AMDA提供